

東帝文ニュース

EAST TIMOR NEWS No.2

2001年8月21日

1999年8月30日に、独立に向けて住民投票が行われました。独立賛成派は、80%に上りました。併しインドネシアとの併合を望んだ人々も20%居たのです。5人に一人です。決して小さくはない数字です。現在2001年8月30日に向けては、立憲議会議員選挙の準備中です。選挙人登録から、始まっています。複数政党制ということで、16政党が名乗りをあげています。それだけ、微妙に個々人の意見の違いがあるのでしょうか。当然といえば当然です。

コーヒーの花が、季節を感じ間違えて咲いています。本来であれば、現在は、実を収穫する時期です。異常気象の所為です。コーヒーの場合、狂い咲きは、次の年の収穫に悪い影響がでるそうです。実の成りが悪いのだそうです。だったら、実をもぐ代わりに、さっさと花をもいでしまえば良いのにと考えるのですが、……

8月3日夜6:00からの日本人連絡会議（日本政府連絡事務所にて）に出席したところ、前回には居なかった、迷彩服姿の自衛官二人（共に二佐）が出席していました。私の娘の連れ合いは、自衛隊員で静岡県御殿場市に住んでいますので、個人的には非難する気は、全くありませんが、実質的な機能上、軍隊である一員が、独立及び平和的な第一歩を踏み出そうとする東ティモールに何しに来たの？という感じをもってしまいました。日本の皆さんは、自衛隊員が迷彩服姿で、東ティモールで活動していることをご存知ですか？

私の住んでいるエルメラという町に、あのノーベル平和賞を受賞したベロ司教が訪れました。身近に接する彼は、恰幅のよい小柄な男性です。1999年住民投票後の混乱の中でエルメラ出身の神父様が、西ティモールとの国境沿いの町で殉教された（民衆と教会に残り虐殺された）ために、二年後の現在、地元の教会でミサを行うため訪れたのです。野次馬の私は、身近で姿を拝すべく群衆の最前列に位置しました。その時、偶然あるジャーナリストが取った写真を添付します。



写真→

右、白衣の男性が、ベロ司教。左の少女から首に掛けてもらって居るのが「タイス」という、東ティモールの絁を織り込んだ織布。場所は、わがSHARE事務所の真ん前。

古いつくりの民家の屋根の天辺の両端に鳥の形をした妻飾りのような物が取り付けられています。東ティモールに来た当初の頃その鳥は、何の鳥か尋ねてもらったところ、「鷺鳥」だとの返事でした。最近別の村で、同じ物を見て、あらためて尋ねたところ、昔からの言い伝えと共に、「鶏」だとの話でした。しかも、その形が、両端の舳先に鳥の形を施した舟を模したものであるらしいのです。「ほー、成るほど。」と思うのは、私だけでしょうか？

竹の多い地域です。竹の文化は、幅広い物があります。かぐや姫から、竹炭、竹酢まで。日本では、竹は、水分の多い崖が崩れそうな所に、わざと移植し増やしました。地崩れを防ぐためだったそうです。今では、地崩れを防ぐために、コンクリートを使います。東ティモールのある地域では、結果的に、珈琲の木がその役目をしているようです。竹のことは、他の役目（垣根とか、水道管とか）でしか思いつかれていないようです。竹の子は、もっと忘れられているようです。「子供の権利条約」について、コルチャック先生は、どう思っているのでしょうか？

8月20日を以って、法貨がアメリカドルとなりました。このことは、本年6月末頃から決っていたのですが猶予期間を作ったため現在となったものです。印刷コストがかからないと言えば聞こえは良いですが、あらためて兌換制度の欺瞞性に思い至ります。東ティモールでは、一度もとの通貨からインドネシアルピアに強制的に変更されています。それからたった四半世紀で又変更です。庶民からすれば、無駄になる貨幣も少なくありません。併し、こんな事が殆ど混乱なく実施できるということは、東ティモールの人々の変幻自在力が強いことと、通貨とは、単なる交換手段の一種でしかないという証明としか考えられません。「通貨」に生きるのではなく、「通貨」を利用して生きるのだという、あたりまえの事を教えて戴きました。感謝です。

閑話休題：此处で、訂正とお詫びです。「東帝文」は、「東帝汶」が正しそうです。他の人にも聞いてみたのです。ティモールは、海に囲まれていますから、「さんずい」のある「文」の方が相応しいと考えます。併し、この「東帝文ニュース」の題字の飾り文字には、「汶」がありませんので、このまま続けさせて戴きます。すいません。

先達で、私の活動する団体（SHARE）で働く職員の方の家に、三泊させて頂きました。まだ、此处の言葉は、話せませんので、身振り手振りでした。彼の家に着いた日は、ちょうど彼の親戚の方の二七日でした。喪主は、遺影に付き添い、参会者は、食べて、飲んで、思い出話に花咲かせます。幾数十人という人たちが親戚で、その関係を説明してくれるのですが、「そうですか」としか返事ができません。まあ「イヴ」と名づけられた人類の祖先からこの方、皆兄弟姉妹には、代わりありません。兎に角、自然に亡くなるのは、納得しようがあります。悔しくて死ぬ人を出してはいけません。道連れや次いで、生き物を殺してはいけません。

この次の日に、1957~1991にブラジルに在住していた酒井さんという方に出会いました。素敵な出会いでした。短い間に合計十数時間も話あってしまいました。頭が下がる体験を聴かしていただきました。委細、面談。文書では、書けません。機会がある方には、口頭でお伝えいたします。お楽しみに、……。彼が、当面ここでしようと思うことは、日本の先達が作り出した「鶏卵孵卵器」の作成だそうです。素晴らしい着想だと考えます。早く、その完成した物を見て、真似して作りたい物です。

酒井さんの標語の一つは、「清く、豊かに、美しく。」です。奥深い物があります。

東ティモールでは、穀物が主食ですが、動物性蛋白は、本当に少ないと感じます。特に、山中に住んでいると、新鮮な魚も食べられません。肉が売られる市場は、週に一回位、鶏卵は毎日手に入りますが、決して新鮮ではありません。野菜の種類も限られています。日本の仏教徒すら、精進料理だけでは、身体が保たないと思い、ある種の動物を食べることを黙認しました。兎は、「一頭」とは数えませんが、「一羽」と数えます。肉食を薦めた訳では、ありませんが、人間も、時には、動物性蛋白を必要とする悲しい存在です。有り難く、頂く訳です。

私は、此处に住んで四国を思い出します。面積も、同じ位、海際から直ぐに山になることも似ています。山に入ってから、集落と集落との離れ方も似ているかもしれません。一つの郡で、端から端まで歩くと四時間位でしょうか。自動車道が網目を作りつつある四国でも、それを外れた地域の移動は、大変です。ここでは、更に自動車を持つ人は、限られています。想像して下さい。但し、馬は居ます。野間馬に似た、小柄で強そうな馬です。売価は、一頭百 US ドル。オートバイを買うよりずっと安い。買い（飼い）たくなりますが、根無し草の私には、買え（飼え）ません。何故か？……ヒント＝1. 根無し草 2. 馬は、草食……快答＝草が無い。

この樹木の名前には、最初に必ず「Ai」が来ます。曰く、Ai-Kameri（白檀）、Ai-Sendula（桧）、Ai-Ayata（仏頭花）、Ai-Hale（楠）等々。集落の名前にも時々、「Ai」が付きます。Ai-Leu, Ai-Naro, Ai-Fu'u……。愛が、満ち満ちているようです。それでも、どこでも、なんでも、かんでも、人は、罪を犯してしまいます。何故か？解答はありません。そこが人間の不可思議なところですし、もう少し長生きして、赦されてみたいと思うところでは。

皆様の御身体御自愛の程祈ります。

縷紅荘主人
高塚政生